教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書（ 平成 28 年度分 ）

津久見市教育委員会

は　じ　め　に

教育委員会は、市長部局から独立して、教育に関する議事の審議を合議制により行うために教育委員長以下5名の教育委員で構成され、基本理念である教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるように組織された機関です。また、教育財産等の管理及びその他の事務を執行するために事務局を設置し、教育委員長を除く教育委員の中から選任された教育長が、その長として教育行政に係る事務を統括しています。

そして、今後の教育行政を更に充実させるためには、継続的に基本理念が遵守されているか自らをチェックし、地域住民にその結果を報告する等、真摯に教育委員会としての責務を果たす必要があると考えています。

このような状況の中、平成19年6月に国の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正されたことに伴い、平成20年度から「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」を実施することが義務付けられたことを機に、教育委員会で「津久見市の教育に関する事務の点検･評価の基本方針」を定め、事務の管理及び執行の状況について、「第5次津久見市総合計画前期基本計画進ちょく状況に係る意見交換会」を活用して報告書を毎年作成することで、問題点の把握及び解決に努めていきたいと考えています。

本報告書が、教育委員会の事務事業について、皆様により一層ご理解を深めて頂くものであることを希望するとともに、「郷土を想う心の豊かなひとを育てるまち」となるために更なるご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

津久見市教育委員会

目　　次

Ⅰ　点検・評価にあたって

１　津久見市の教育に関する事務の点検・評価の基本方針　・・・ 1

２　教育委員会の組織　・・・ 2

３　教育委員会の開催状況　・・・ 2

４　記入方法　・・・ 3

Ⅱ　平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

１　学校教育の充実　（担当　学校教育課）　・・・ 4～19

２　社会教育の充実　（担当　生涯学習課）　・・・20～23

３　スポーツ・レクリエーション活動の推進　（担当　生涯学習課）　・・・24～25

４　青少年の健全育成　（担当　生涯学習課）　・・・26～29

５　地域文化の伝承と芸術文化活動の充実　（担当　生涯学習課）　・・・30～33

Ⅰ　点検・評価にあたって

1　津久見市の教育に関する事務の点検・評価の基本方針

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に基づき、津久見市教育委員会が実施する「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について、次のとおり行うものとする。

①　評価の時期・対象

毎年度、教育委員会が前年度に実施した事務事業において、下記②の(1)及び(2)の２項目について点検・評価を行う。

②　点検・評価の項目

(1) 津久見市総合計画における教育委員会所管項目の「施策」について、点検・評価を行う。

ア テーマ毎に「施策の方向」を設け、「計画内容及び主要な施策」ごとに当該年度の具体的な実施状況を点検・評価する。

イ 当該年度の進捗状況を目標値と比較し、ＡからＥまでランクを付けて評価を行う。

(2) その他、教育施策上の重要課題

③　点検・評価の指標

点検・評価を行うに当たっては、津久見市総合計画進ちょく状況に係る意見交換会委員による同意見交換会の知見を活用するものとする。

④　点検・評価のスケジュール

・2 月　　当該年度事務のマネージメントシートを更新（自己点検・評価）
・3 月　　市総合計画進ちょく状況に係る意見交換会による点検・評価
・6 月～7 月　報告書の作成
・8 月　　教育委員会定例会で報告書を決定（議決）
・9 月　　市議会に報告、公表

⑤　市議会への報告、公表について

(1) 市議会への報告

教育委員会が決定した点検・評価の報告書は、市議会に提出するものとする。

(2) 公表の方法

点検・評価結果の報告書は、市議会に提出した後、教育委員会のホームページで公表する。

⑥　点検・評価結果の反映

点検・評価結果については、教育行政に適切に反映させ、教育行政の運営の効率化及び質の向上を図るものとする。

⑦　その他

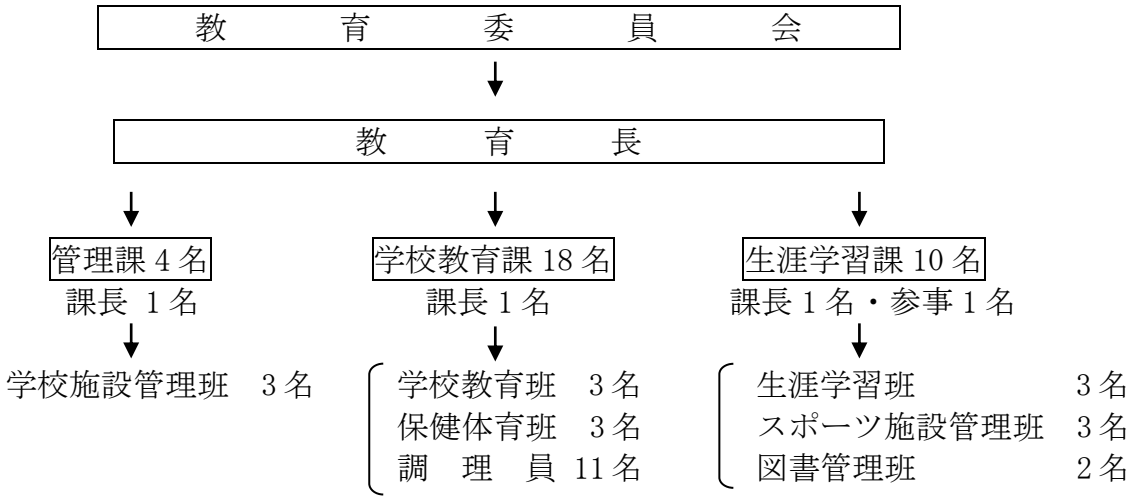
点検・評価の項目、報告書の様式、市議会への提出（報告）の方法等については、各教育委員会が実情を踏まえて決めることになっているため、市議会や委員会、市の意見を参考にしながら随時改善していくこととする。

2　教育委員会の組織

教育委員会委員

職　　名	氏　　名	摘　　要
委　員　長	深　井　重　利	H28.12.7（委員長就任）
委員長職務代理	金　田　貞　喜	H28.12.7（職務代理就任）
委　　員	佐　藤　裕　子	H28.12.7（教育委員就任）
委　　員	髙　司　龍　二	H28.12.7（教育委員就任）
教　育　長	平　山　正　雄	H25.11.9（教育長就任）

教育委員会体制



3　教育委員会の開催状況

区　分	開催日	区　分	開催日
教育委員会	平成 28 年 4 月 25 日	教育委員会	10 月 25 日
教育委員会	5 月 25 日	教育委員会	11 月 25 日
教育委員会	6 月 27 日	教育委員会	12 月 26 日
教育委員会	7 月 25 日	教育委員会	平成 29 年 1 月 25 日
教育委員会	8 月 25 日	教育委員会	2 月 27 日
教育委員会	9 月 26 日	教育委員会	3 月 27 日

4 記 入 方 法

施　策　名・・・総合計画の「施策名」を記入する。

施策の方向・・・総合計画の「施策の方向」を記入する。

計画内容及び・・・総合計画の「計画内容及び主要な施策」を記入する。
主 要 な 施 策

1. 施策指標の・・・目標値に対する進ちょく状況の「評価」を記入する。
進ちょく状
況の評価欄　　A:目標値に達成した（100%）
B:概ね目標値に達成した（100%未満～75%以上）
C:目標値に達成してない部分がある（75%未満～50%以上）
D:ほぼ目標値に達成してない（50%未満～25%以上）
E:全く目標値に達成してない（25%未満）
右欄にその説明等を記入する。

2. 課　題　等・・・昨年度から引き続き課題等となっているものを記入する。

3. 取組状況等・・・実際に行った取組状況等を記入する。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	学校教育課

施　策　名	学校教育の充実
施策の方向	幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。 学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。 さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。
計画内容及び主要な施策	（１）幼児教育の充実 （２）確かな学力を育む教育の推進 （３）健やかな体を育む教育の推進 （４）豊かな心を育む教育の推進 （５）地域とともにある学校づくり

１．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、１指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度現状値	32 年度目標値	説明等
C	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生国語Ａ）	%	-1.8%	0.0%以上	全国平均正答率に 1.8%届かなかった。
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生数学Ａ）				
	体力・運動能力調査小学生全国平均以上の割合				
	体力・運動能力調査中学生全国平均以上の割合				
	人権・同和教育研修会開催回数				
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数				

２．課題等

平成２８年度全国学力・学習状況調査結果

教科	小6・国		小6・算		中3・国		中3・数	
区分	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
市町村	70.8	51.7	79.7	44.0	73.8	67.1	64.3	42.8
大分県	72.7	58.2	77.9	46.7	74.7	66.2	60.9	42.1
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1

【平成２８年度学力向上アクションプランに基づく検証】

○平成２８年度全国学力・学習状況調査ですべての教科で全国平均を超えた学校数
　小（２／５）中（２／３）　［達成指標：小（３／５）、中（２／３）］

○低学力層の児童生徒の率（正答率４０％未満）

◆全国調査「A」問題平均正答率［達成指標：小・中とも８％以内］
小学校６年　国語　１２％
中学校３年　国語　　４％
◆全国調査「B」問題平均正答率［達成指標：小・中とも２５％以内］
小学校６年　国語　３８％　⇒▲全校のB問題が未達成
中学校３年　国語　１６％
○各校の児童生徒の授業評価において、「授業がわかる」と答える児童生徒の割合
［達成指標：小学校８０％　中学校７０％］
小学校平均値　　８５．９％　　◎達成
中学校平均値　　８２．２％　　◎達成
▲学校間によって数値にばらつきがある。

○授業改善５点セットに基づいた授業改善の取組が、教務主任ならびに研究主任を中心に組織的に行われつつあるが授業改善計画を作成（あるいは訂正・変更）して、組織的かつ計画的に行われていない学校がある。
○学力向上プランの推進・実行に向けて、検証サイクルが十分に機能できておらず、バージョンアップ・ステップアップできていない。
○板書プレートの使用は、ほぼ徹底できているものの、新大分スタンダードに基づいた授業展開がまだ十分に浸透できていない。
○学力向上支援教員ならびに習熟度別指導教員の公開授業に全教員が 2 回以上参加する取組指標が達成できていない。
○学力向上に向けての取組において、共通のベクトル設定が重要となる。（組織マネジメントの向上・教職員のさらなる意識改革）

【課題（平成２９年度に向けて）】
①児童・生徒の課題
○学習に向かう望ましい学習規律の確立。（共通指導事項の確認）
○生徒指導の３機能を意識した授業づくりがまだ不十分。
○各教科において言語活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力の向上が重要となる。
○活用問題に苦手意識を持ち、全国平均を下回っている状況があり、読解力、情報分析処理能力、説明能力（文章）に課題がある。
○読書活動（本に親しむ態度）の個人差の是正。

②学校等が抱える組織的・構造的な課題
○マネジメント側とアクション側との協働体制の確立。
○授業力向上に向けての意識改革。
○学年部・教科部での目標達成に向けてのプランの共有化。
○ＩＣＴを含む施設・設備面での充実。
○授業改善に向けての短期的なＰＤＣＡサイクルの確立。
○授業規律および学習規律等の校内での徹底。

３．取組状況等

【津久見市学力向上施策に基づいた取組の徹底】
１．学級づくり・学習規律の確立

（１）学級開きの取組

◆スタートカリキュラムの取組

（２）Ｑ－Ｕ調査を活用した学級づくり

２．授業改善

（１）「津久見市授業力向上プロジェクト 2017」

◆プロジェクト１：授業視察⇒優れた授業実践に学ぶ先進地視察等

２：学力向上推進ＰＴの活用⇒公開授業・外国語活動研修会等

３：学力向上に係る研修会⇒年２回の全教職員による研修会

４：学びに向かう集団づくり⇒児童生徒による授業評価・津久見スタンダードの確立等

５：授業改善への挑戦⇒全教員による学期に１回以上の挑戦

カリキュラム・マネジメント力の向上

（２）「新大分スタンダード」の徹底

（３）授業改善ＰＤＣＡサイクルの確立

３．補充学習（基礎基本の定着・弱点補強）

（１）「つまずきを次年度に持ち越さない補充学習」の取組

（２）基礎基本の定着をはかる家庭学習の取組

（３）放課後や長期休業中を活用した補充指導の取組

【「プラン５」の実践と「３つの学力」（ＡＢＣ）の向上】

※「プラン５」 ⇒ 学力向上施策・不登校防止対策アクションプラン・いじめ防止アクションプラン・体力向上アクションプラン・　特別支援教育アクションプラン

※「３つの学力」⇒Ａ学力（知識・技能）Ｂ学力（思考力・判断力・表現力）

Ｃ学力（夢と志力・自律力・絆力・実践力）

◆Ａ学力をベースにして、Ｂ学力を高め、Ｃ学力を向上させること。

◆Ｃ学力に働きかけ、Ｂ学力を育む場を提供することにより、Ａ学力を高めること。

両面からのアプローチにより、【めざす津久見っ子の姿】の実現を図る。

■全国学力・学習状況調査、大分県学力定着状況調査［Ａ学力・Ｂ学力］

⇒　平成 31 年度目標、偏差値 50 以上（全教科が全国平均を上回る）

（平成 27 年度　小 6…1/4 科目・中 3…0/4 科目・小 5…3/6 科目・中 2…6/8 科目）

（平成 28 年度　小 6…1/4 科目・中 3…2/4 科目・小 5…6/6 科目・中 2…6/8 科目）

■全国学力・学習状況調査質問紙［Ｃ学力］

⇒　平成 31 年度目標　肯定的回答がすべて全国平均を上回る。

【小学校６年】

	質問項目	津久見市	全国平均
夢と志力	将来の夢や目標を持っていますか	57.6%	68.6%
	自分には，よいところがあると思いますか	41.4%	36.2%
自律力	学校のきまりを守っていますか	46.5%	42.9%
絆　力	学校に行くのは楽しいと思いますか	51.5%	55.2%
	学級みんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがありますか	58.6%	58.5%
実践力	難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか	24.2%	25.3%

【中学校３年】

C学力	質問項目	津久見市	全国平均
夢と志力	将来の夢や目標を持っていますか	29.5%	45.1%
	自分には，よいところがあると思いますか	17.0%	27.4%
自律力	学校のきまりを守っていますか	57.1%	61.6%
絆　力	学校に行くのは楽しいと思いますか	45.5%	48.4%
	学級みんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがありますか	56.3%	57.9%
実践力	難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか	21.4%	19.0%

●ふるさと津久見の特性を活かした「ふるさと教育」の充実

●「津久見プロジェクト」の推進⇒「色」をテーマとした教科融合型学習の開発

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	学校教育課

施　策　名	学校教育の充実
施策の方向	幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。 学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。 さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。
計画内容及び主要な施策	（１）幼児教育の充実 （２）確かな学力を育む教育の推進 （３）健やかな体を育む教育の推進 （４）豊かな心を育む教育の推進 （５）地域とともにある学校づくり

１．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、１指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度現状値	32 年度目標値	説明等
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生国語Ａ）				
Ａ	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生数学Ａ）	**％**	**2.1%**	**0.0%以上**	全国平均正答率を **2.1%上回り、目標値を達成した。しかし、**低学力層の児童生徒の率については、18%で学力向上アクションプラン達成指標（8%以内）を達成することができなかった。
	体力・運動能力調査小学生全国平均以上の割合				
	体力・運動能力調査中学生全国平均以上の割合				
	人権・同和教育研修会開催回数				
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数				

２．課題等

平成２８年度全国学力・学習状況調査結果

教科	小6・国		小6・算		中3・国		中3・数	
区分	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
市町村	70.8	51.7	79.7	44.0	73.8	67.1	64.3	42.8
大分県	72.7	58.2	77.9	46.7	74.7	66.2	60.9	42.1
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1

【平成２８年度学力向上アクションプランに基づく検証】
○平成２８年度全国学力・学習状況調査ですべての教科で全国平均を超えた学校数
小（２／５）中（２／３）　［達成指標：小（３／５)、中（２／３)］

○低学力層の児童生徒の率（正答率４０％未満）
◆全国調査「A」問題平均正答率［達成指標小・中とも８％以内］
小学校６年　算数　　４％
中学校３年　数学　１８％
◆全国調査「B」問題平均正答率［達成指標小・中とも２５％以内］
小学校６年　算数　４７％
中学校３年　数学　５４％

３．取組状況等

【津久見市学力向上施策に基づいた取組の徹底】
【「プラン５」の実践と「３つの学力」（ＡＢＣ）の向上】

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	学校教育課

施　策　名	学校教育の充実
施策の方向	幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。 学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。 さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。
計画内容及び主要な施策	（１）幼児教育の充実 （２）確かな学力を育む教育の推進 （３）健やかな体を育む教育の推進 （４）豊かな心を育む教育の推進 （５）地域とともにある学校づくり

１．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、１指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生国語Ａ）				
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生数学Ａ）				
C	体力・運動能力調査小学生全国平均以上の割合	%	46.8%	60%以上	平成 27 年度 40.6%から 6.2%上がったものの、目標値には 13.2%届かず達成できていない。また、低体力層（Ｄ＋Ｅ層）の割合が多い。
	体力・運動能力調査中学生全国平均以上の割合				
	人権・同和教育研修会開催回数				
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数				

２．課題等

平成２８年度体力・運動能力等調査結果（県調査結果から）

○小学生（８種目）　全国平均以上の割合　46.8%（45／96 種目）　　（H27　40.6 %）

学年	男子	全国平均以上の種目	女子	全国平均以上の種目
1年生	7種目	反復横跳び以外すべて	5種目	握力、長座、シャトル、50m、立幅
2年生	5種目	上体、長座、反復、立幅、ボール投げ	4種目	上体、長座、立幅、ボール投げ
3年生	1種目	ボール投げ	2種目	立幅、ボール投げ
4年生	5種目	長座、反復、シャトル、立幅、ボール	6種目	上体、長座、反復、シャトル、立幅、ボール投げ
5年生	3種目	長座、反復、シャトル	3種目	上体、長座、ボール投げ
6年生	2種目	握力、上体	2種目	上体、ボール投げ

男子　47.9　%　（23／４８種目）　　女子　４５．８%　（２２／４８種目）

平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

小学生（5年）	男子	女子
運動が好き	56.6%	60.3%
体育の授業楽しい	56.2%	58.3%
体育の授業の目標が示されている	56.5%	60.5%

【平成２８年度体力向上アクションプランに基づく検証】

○運動好きな児童生徒の割合［達成指標：小学校　男子９０％以上　女子８５％以上］
・小学校　　男子　８９．９％
　　女子　８１．２％　　いずれも×

○運動嫌いな児童生徒の割合［達成指標：小学校　男子０％　女子０％］
・小学校　　男子　７％
　　女子　１２％　　いずれも×

○全国平均以上の項目の割合［達成指標：小学校　男子４５％以上　女子５５％以上］
・小学校　　男子　４７．９％　　○
　　女子　４５．８％　　×

○取組指標１
・体育・保健体育の授業以外で、運動習慣化の確立の取組を行っている学校の割合 100％
・児童会・生徒会と連携した運動好きな児童生徒を育てる取組をしている学校の割合 100％

◆結果：いずれの項目も達成できている。
●小学校では、一輪車、長縄、縄跳び、マラソン全校遊び、縦割り班遊びなどに取組んでいる。

○体力の状況についての課題
・小学校は学年あるいは男女によって体力の状況にばらつきがあるが、男女とも「握力・５０M走」の２種目において全国平均を下回っている学年が多い。
・Ｄ＋Ｅ層の割合が多い。（小学校男子２４．４％・女子２２．６％）
・運動嫌いの傾向は改善されてきているが、特定の児童・生徒に意識の改善が見られていない。（運動嫌いな子へのアプローチの具体）
・目標を意識・達成意識をもって授業に取り組むことができていない。

【総括】

○体育専科教員ならびに体力向上推進教員を核とした、体力・運動能力向上の取組が実を結び、確実に数値に成果が見られるようになってきた。さらに、各校の一実践の取組が定着してきていることが数値に表れていると判断できる。また、栄養教諭や栄養職員、ならびに養護教諭と連携した健康安全・食育の授業が定着してきているのも大きな成果と言える。

３．取組状況等

【平成２９年度体力向上アクションプランに基づく取組の徹底】

１．学校の組織的な取組（一校一実践の取組を中心に据えて）

○「運動大好き！元気でたくましい津久見っ子」を共通のテーマに掲げ、市内どの学校も運動の機会を増やし、児童生徒の体力向上に向けた意識改革を図る。

○教職員用アクションプラン内の３つの重点的取組の徹底。
（①学校の組織的な取組　②指導方法の工夫改善　③運動習慣の確立）

○管理職の指導の下、体育主任を中心とした学校全体での「一校一実践」の推進を行う。

○体育専科教員活用推進校によるモデルプランの提示や実践事例を広める。

○市教育委員会による学校毎の取組に対する指導・助言を行う。

２．体育の授業の指導方法の工夫改善
　○体育の授業における授業改善

３．運動好きな児童・生徒の育成
　○「運動することを好きになり、運動の機会を広げる」を共通テーマとして取り組む。

４．望ましい生活習慣の育成
　○児童会・生徒会と連携した運動好きな児童生徒を育てる取り組みを行う。
　○体育・保健体育授業以外でも、運動習慣化の確立の取り組みを行う。
　○養護教諭を中心に、年５回以上、通信（体の健康・心の安全等）を通して啓発を行う。
　○食育担当者会議において、栄養教諭と連携した食育に関する取組を推進する。
　　（お弁当の日の取組：市内全中学校にて）
　○つくみの子ども（小中学生）みんなで守ろう！の徹底。（挨拶・就寝時刻）
　○フッ化物洗口を推進する。
　○つくみっ子だんらん食堂の取組を進める。
　○「輪（わ）食の日」の取組を推進する。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	学校教育課

施　策　名	学校教育の充実
施策の方向	幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。 学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。 さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。
計画内容及び主要な施策	（１）幼児教育の充実 （２）確かな学力を育む教育の推進 （３）健やかな体を育む教育の推進 （４）豊かな心を育む教育の推進 （５）地域とともにある学校づくり

１．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、１指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度現状値	32 年度目標値	説明等
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生国語Ａ）				
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生数学Ａ）				
	体力・運動能力調査小学生全国平均以上の割合				
Ａ	体力・運動能力調査中学生全国平均以上の割合	**％**	**64.5%**	**40%以上**	平成 27 年度 39.6%から 24.9%上がり、目標値を 24.5%上回り達成できた。しかし、低体力層（Ｄ＋Ｅ層）の割合は依然として多いことが課題である。
	人権・同和教育研修会開催回数				
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数				

２．課題等

平成２８年度体力・運動能力等調査結果（県調査結果から）

○中学生（８種目）　全国平均以上の割合　64.5%（31／48 種目）　　（H27 39.6%）

学年	男子	全国平均以上の種目	女子	全国平均以上の種目
1年生	6種目	握力,シャトル以外6種目	7種目	立幅以外7種目
2年生	5種目	握力,長座、反復、50M、ボール投げ	6種目	上体、シャトル以外6種目
3年生	3種目	握力、長座、ボール投げ	4種目	握力、反復、立幅、ボール投げ

男子　５８．３　％　（１４／２４種目）　女子　７０．８％　（１７／２４種目）

○児童生徒・学校質問紙調査結果

中学生(2年)	男子	女子
運動が好き	42.5%	55.5%
体育の授業楽しい	42.1%	53.3%
体育の授業の目標が示されている	36.0%	49.6%

【平成２８年度体力向上アクションプランに基づく検証】

○運動好きな児童生徒の割合［達成指標：中学校　男子９８％以上　女子９５％以上］

・中学校　　男子　９０．１％

　　女子　７６．２％　　いずれも×

○運動嫌いな児童生徒の割合［達成指標：中学校　男子０％　女子０％］

・中学校　　男子　１％

　　女子　３％　　いずれも×

○全国平均以上の項目の割合［達成指標：中学校　男子５０％以上　女子５０％以上］

・中学校　　男子　５８．３％　　○

　　女子　７０．８％　　○

○取組指標１

・体育・保健体育の授業以外で、運動習慣化の確立の取組を行っている学校の割合 100％

・児童会・生徒会と連携した運動好きな児童生徒を育てる取組をしている学校の割合 100％

◆結果：いずれの項目も達成できている。

●中学校では、長縄大会やクラスマッチの練習昼休みに体育館を開放しての集団スポーツ等。

○体力の状況についての課題

・中学校では「握力・ボール投げ」の成績がよく、全体的に体力が高まってきている。

・Ｄ＋Ｅ層の割合が多い。（中学校男子２５．８％・女子１３．９％）

・「体育の授業が楽しい」と答える児童生徒の割合が少ない。

・運動嫌いの傾向は改善されてきているが、特定の児童・生徒に意識の改善が見られていない。（運動嫌いな子へのアプローチの具体）

・目標を意識・達成意識をもって授業に取り組むことができていない。

【総括】

○体育専科教員ならびに体力向上推進教員を核とした、体力・運動能力向上の取組が実を結び、確実に数値に成果が見られるようになってきた。特に中学校での数値の伸びが顕著である。さらに、各校の一実践の取組が定着してきていることが数値に表れていると判断できる。また、栄養教諭や栄養職員、ならびに養護教諭と連携した健康安全・食育の授業が定着してきているのも大きな成果と言える。

３．取組状況等

【平成２９年度体力向上アクションプランに基づく取組の徹底】

１．学校の組織的な取組（一校一実践の取組を中心に据えて）

○「運動大好き！元気でたくましい津久見っ子」を共通のテーマに掲げ、市内どの学校も運動の機会を増やし、児童生徒の体力向上に向けた意識改革を図る。

○教職員用アクションプラン内の３つの重点的取組の徹底。

（①学校の組織的な取組　②指導方法の工夫改善　③運動習慣の確立）

○管理職の指導の下、体育主任を中心とした学校全体での「一校一実践」の推進を行う。

○体育専科教員活用推進校によるモデルプランの提示や実践事例を広める。

○市教育委員会による学校毎の取組に対する指導・助言を行う。￥

２．体育の授業の指導方法の工夫改善

○体育の授業における授業改善

３．運動好きな児童・生徒の育成

○「運動することを好きになり、運動の機会を広げる」を共通テーマとして取り組む。

４．望ましい生活習慣の育成

○中学校において、体育の授業以外にも組織的に取り組むよう助言を行う。
○児童会・生徒会と連携した運動好きな児童生徒を育てる取り組みを行う。
○体育・保健体育授業以外でも、運動習慣化の確立の取り組みを行う。
○養護教諭を中心に、年５回以上、通信（体の健康・心の安全等）を通して啓発を行う。
○食育担当者会議において、栄養教諭と連携した食育に関する取組を推進する。
（お弁当の日の取組：市内全中学校にて）
○つくみの子ども（小中学生）みんなで守ろう！の徹底。（挨拶・就寝時刻）
○フッ化物洗口を推進する。
○つくみっ子だんらん食堂の取組を進める。
○「輪（わ）食の日」の取組を推進する。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	学校教育課

施　策　名	学校教育の充実
施策の方向	幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。 学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。 さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。
計画内容及び主要な施策	（1）幼児教育の充実 （2）確かな学力を育む教育の推進 （3）健やかな体を育む教育の推進 （4）豊かな心を育む教育の推進 （5）地域とともにある学校づくり

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生国語A）				
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生数学A）				
	体力・運動能力調査小学生全国平均以上の割合				
	体力・運動能力調査中学生全国平均以上の割合				
A	人権・同和教育研修会開催回数	回	5 回	5 回	人権・同和教育研修会開催回数は５回開催することができた。加えて若手教員研修・１０年経験者研修においても人権・同和教育研修を実施した。
	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数				

2．課題等

○人権・同和教育研修会開催回数は５回開催することができた。
○人権教育担当者会で担当者が学んだことを、校内で広め共有することに依然として課題がある。
○人権・同和教育が学校教育の根底をなすものであることを、教員がきちんと理解することがまだ十分にできていない。特に部落問題学習については、その実践に自信のなさから躊躇する傾向がやや見られる。平成 28 年度の小中学校における部落問題学習の取組の総括では、「ふみきりむこう」「教科書がほしい」「西光万吉と水平社」等の教材を使った実践が計画的に行われている一方、課題をうまく設定できず深まらないまま終始することもあるなど、教

員の力量の向上に大きな課題があることが改めて浮き彫りとなっている。「『同和問題』のどんなことを子どもに伝えればいいのか、よくわからない。」という率直な不安・自信のなさを校内の振り返りの中でもらす若い教員もいる中、きちんと子どもたちと向き合うことができる教員育成に堪えうる校内研修を計画していく必要がある。

３．取組状況等

○人権・同和教育研修会開催を計画手に実施するとともに、その充実を図る。
◆人権教育担当者会３回
◆管理職研修１回
◆人権同和教育研究会夏期講演会１回
◆人権同和教育研究会研究大会１回
○若手教員研修、中堅教員研修市教委研修において、人権・同和教育について市教委として講義を行い、人権・同和教育の実践力の向上を図る。
○校長会議・教頭会議・人権教育担当者会議において、「部落差別解消推進法」は部落問題学習の充実・徹底を図らなければならない根拠法であるという視点に立ち、今後の取組の推進を指導していく。特に、「『部落差別解消法』より学ぶ」・「『人権教育の指導方法等の在り方について』［第三次とりまとめ］概要版」の効果的な活用を図る。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	学校教育課

施　策　名	学校教育の充実
施策の方向	幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なものです。そのため、子どものことを第一に考えながら、質の高い教育・保育の提供、保護者や地域の教育力向上の支援を行うとともに、教育・保育の一体的な運営の推進を図ります。 学校教育においては、子どもたちが確かな学力、豊かな心と健やかな体を育成することのできる社会を実現するとともに、信頼される学校・特色ある学校づくりを進めます。 さらに学校・家庭・地域が協働し、より一層、開かれた学校づくりを推進します。
計画内容及び主要な施策	（1）幼児教育の充実 （2）確かな学力を育む教育の推進 （3）健やかな体を育む教育の推進 （4）豊かな心を育む教育の推進 （5）地域とともにある学校づくり

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生国語A）				
	全国学力調査平均正答率との差（中学校３年生数学A）				
	体力・運動能力調査小学生全国平均以上の割合				
	体力・運動能力調査中学生全国平均以上の割合				
	人権・同和教育研修会開催回数				
B	学校・家庭・地域の「協働」に取り組む学校数	**校**	**6/8 校**	**8/8 校**	市内部６校についてはすべて学校運営協議会設置校として指定し、家庭・地域との「協働」の取組を推進している。また、離島２校についても学校評議委員会を核として「協働」の取組が行われている。

2．課題等

○離島を除くすべての学校を学校運営協議会設置校として指定し、コミュニティースクールがスタートしている。その取り組みの充実に向けて各校とも努力し、年間のべ８００名を超えるゲストティーチャーを招いている学校や、桜の植樹・親子防災教室等の取組など、大きな成果を見せている。市教委も原則すべての学校運営協議会に出席し、情報共有とともに指導を行っている。

○反面、学校運営協議会に対する予算措置がないため、運営・活動に限界が出ている。今後に向けた予算措置が必要となっている。

○ゲストティーチャーをはじめとする「協働」の取組を推進するほど、連絡調整の業務が増加することとなるため、コーディネーターをいかに配置・育成していくかが大きな課題である。

【津久見市学校組織力向上計画に基づく検証】

○「学校評価４点セット（津久見市版)」に基づき、各校において学校・ 家庭・地域の協働がより推進されるようになっている。

○臨時校長会議の中で、全校長が自校のプレゼンを行うことで、市内の協働の情報共有と推進に向けての意欲向上を図ることができた。

○市内先進校の協働の取組をさらに市内全校へと広める必要がある。

○中学校における家庭・地域との協働、とりわけ地域人材の活用については今後研究・工夫の必要性がある。

３．取組状況等

○学校教育指導方針に基づいて、施策の充実を図っていく。

○「学校評価４点セット」を最上位の学校マネジメントツールとして位置付け、その中に学校・家庭・地域の「協働」を設定している。学期ごとに短期のＰＤＣＡサイクルを回し、検証・改善に取り組んでいる。

【津久見市学校組織力向上計画に基づく取組】

○学校評価を本質的な課題解決に向けた教職員の課題意識の共有と、家庭・地域との協働に結びつけるため、市内先進校の取組をさらに市内全校へと広める研修の場を、校長会議・教頭会議・教務主任会議等に設定する。

○中学校における家庭・地域との協働、とりわけ地域人材の活用を推進するため、先進地域の研究と地域人材の発掘・育成に着手する。

○各中学校区のコミュニティースクールの連携・連動に向けた支援・指導を校長会議・教頭会議・学校運営協議会等において行う。⇒「協育ネットワーク」

○「一中校区コミュニティースクール」の充実に向けた支援・指導を推進する。

○津久見高校との連携をさらに強化し、市全体の協働の確立に向けた取組に着手する。
⇒「協育ネットワーク」(ステップアップ教室・英検チャレンジ対策講座等)

○老朽化している施設も多く、今後は長寿命化に向けた維持管理事業が重要となってくる。まずは、各学校施設の現況の調査や長寿命化を図っていくための計画づくりを行い、事業を実施していくこととする。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	社会教育の充実
施策の方向	市民が生涯にわたって学び、生きがいや豊かな心を育めるよう学習ニーズを把握し、地域人材の活用によるカリキュラムの充実を図り、生涯学習環境を整えます。図書館については、玄関ホールの企画展示の活用等も合わせ、利用しやすい図書館づくりを推進します。 また地質資源や文化財、さらには本市の基幹産業などに関する学習機会を提供し、市民誰もが郷土に誇りを持って地域振興に取り組む機運を醸成します。
計画内容及び主要な施策	（1）学習機会の創出 （2）市民に愛される図書館づくり （3）学術交流活動の推進

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度現状値	32 年度目標値	説明等
A	**公民館利用状況**	**回**	**1,502**	**1,490**	**大ホール、講義室、研修室、調理室、和室の利用回数**
	公民館教室数				
	蔵書貸出数				
	地質資源の講演回数				

2．課題等

公民館は S50 年に建築され、老朽化も進み修繕箇所も多く、2F は階段でしか上がれないので、高齢者や身障者の方に不便をかけている。

庁舎建設や中学校の統合問題も合わせて、公民館の建て替えも大きな課題と言える。

地理的な条件になるが、駐車場が狭く、多くの台数が止められない。天気がいい日には自転車や徒歩で来る人でも、雨天時には車を使うこともあるので、駐車場の確保が課題。

3．取組状況等

公民館は地域住民にとって最も身近な学習拠点というだけでなく、交流の場として重要な役割を果たしている。

駐車場は、近くにある「風の荘」にお願いし、事前に連絡をして許可がもらえれば駐車できるよう依頼済み。ただし、無断駐車もあったことから、利用者にその徹底を図っている。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	社会教育の充実
施策の方向	市民が生涯にわたって学び、生きがいや豊かな心を育めるよう学習ニーズを把握し、地域人材の活用によるカリキュラムの充実を図り、生涯学習環境を整えます。図書館については、玄関ホールの企画展示の活用等も合わせ、利用しやすい図書館づくりを推進します。 また地質資源や文化財、さらには本市の基幹産業などに関する学習機会を提供し、市民誰もが郷土に誇りを持って地域振興に取り組む機運を醸成します。
計画内容及び主要な施策	（1）学習機会の創出 （2）市民に愛される図書館づくり （3）学術交流活動の推進

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	公民館利用状況				
B	**公民館教室数**	**回**	**12**	**15**	**女性・成人・その他を対象とした、各公民館教室の開催回数**
	蔵書貸出数				
	地質資源の講演回数				

2．課題等

2F 大ホールを使うことが多いが、階段しかないために、高齢者や身障者の方に不便をかけている。

若いお母さんたち向けの教室も考えるが、託児場所がないのできびしい。このため開催教室の幅が広がらない。

年金受給の関係で昼も夜も働いている人が多く、65 歳以上の人でなければ、なかなか集まらないので、年齢層の幅も広がらない。

3．取組状況等

女性教室　旬の野菜でいきいきクッキング　　パッチワーク教室
　　パン作り教室　　温かい家庭料理教室（2 回）

成人教室　フォトでホッとスクール　　初心者のための色えんぴつ画教室
　　扇子踊り教室　　折り紙教室

その他　　男の楽・らくクッキング　　親子パン作り教室
　　フレスコ画教室（一般、子ども、中・高生）

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	社会教育の充実
施策の方向	市民が生涯にわたって学び、生きがいや豊かな心を育めるよう学習ニーズを把握し、地域人材の活用によるカリキュラムの充実を図り、生涯学習環境を整えます。図書館については、玄関ホールの企画展示の活用等も合わせ、利用しやすい図書館づくりを推進します。 また地質資源や文化財、さらには本市の基幹産業などに関する学習機会を提供し、市民誰もが郷土に誇りを持って地域振興に取り組む機運を醸成します。
計画内容及び主要な施策	（1）学習機会の創出 （2）市民に愛される図書館づくり （3）学術交流活動の推進

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	公民館利用状況				
	公民館教室数				
B	**蔵書貸出数**	**冊**	**48**	**55**	**1 人当たりの貸出冊数**
	地質資源の講演回数				

2．課題等

平成 8 年の開館から 20 年が経過し、累計貸出冊数は 7 月には 200 万冊を突破した。

しかし、平成 18 年から 22 年度には年平均 77 千冊あった貸出が、28 年度には約 58 千冊と大きく減少している。その主な要因としては、市の人口の減少が貸出冊数の減少へ影響していると考えられる。

今後も、人口の減少が予想される中、幼少期からの図書への親しみや、興味・関心を持つ取組が必要となる。

3．取組状況等

○ニーズを考慮した選書とリクエスト対応
- 幅広い書籍の選書やリクエストを考慮した図書資料の購入。
- 公共図書館の相互貸借を活用した支援。

○図書館情報の発信
- 図書館ホームページ、毎月の市報、図書館だよりによる新刊等の紹介。
- 玄関ホールを活用した、様々な展示やトピック展等の開催。
- こども園への各種行事等の紹介・案内。

○図書に親しむための連携
- 毎年 7 月の図書館まつりに、小学生は 1 日図書館員として委嘱し、中学生は図書館ボランティアの体験を行い、図書館をより身近に感じてもらう取組。
- 職場体験として、中学生・高校生の受け入れを行い、図書館業務や図書の魅力を体験してもらう取組。

○移動図書館車の巡回サービス
- 高齢者等の図書館利用が困難な利用者への支援や各地域及び小学校等への巡回。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	社会教育の充実
施策の方向	市民が生涯にわたって学び、生きがいや豊かな心を育めるよう学習ニーズを把握し、地域人材の活用によるカリキュラムの充実を図り、生涯学習環境を整えます。図書館については、玄関ホールの企画展示の活用等も合わせ、利用しやすい図書館づくりを推進します。 また地質資源や文化財、さらには本市の基幹産業などに関する学習機会を提供し、市民誰もが郷土に誇りを持って地域振興に取り組む機運を醸成します。
計画内容及び主要な施策	（1）学習機会の創出 （2）市民に愛される図書館づくり （3）学術交流活動の推進

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	公民館利用状況				
	公民館教室数				
	蔵書貸出数				
D	**地質資源の講演回数**	**回**	**4**	**10**	**津久見の地質等に関する講演会や学校での学習機会の提供**

2．課題等

津久見市には広大な石灰石鉱山を始め、長目の蛇紋岩から四浦の珪石・マンガンまで、多種にわたる鉱物や地質が点在しており、「網代島の宇宙塵」や「江ノ浦の隕石衝突の痕跡」等、世界的にも非常に貴重な地質資源もある。

津久見市観光戦略においても、ジオ体験観光を重点施策として取り上げているため、津久見市観光協会とも連携を取りながら、いかに情報発信していくか、また、日代小中学校をどのように活用していくかが今後の課題。

3．取組状況等

基幹産業である石灰石に関する副読本「津久見の石灰石とわたしたちのくらし」を製作。
講演会としては、津久見宇宙ロマン特別講演として、

H29.1.15　第一部　惑星探査機「はやぶさ」に見る今の宇宙探査
　　講師：JAXA 佐伯孝尚　助教
H29.2.05　第二部　網代島に眠る 2 億 4000 万年前の宇宙
　　講師：熊本大学　尾上哲治　准教授　　を行い、
H29.2.26　網代島地層見学会
　　講師：白水秀子　　を行った。

学校での学習機会としては、

H29.3.16　保戸島中学校に出向き、副読本「津久見の石灰石とわたしたちのくらし」の説明と保戸島の地質・地層について説明を行った。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	スポーツ・レクリエーション活動の推進
施策の方向	市民が生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しみ、その活動を通じて、心身ともに健康な生活が送れるよう地域に密着したスポーツ・レクリエーションの普及、啓発を促進します。また既存施設の改修や充実を図り、スポーツ交流の拠点施設を整備します。 競技スポーツの強化においては、各競技の指導者育成と選手強化を目的とした施策を推進していくことで地域の活性化を図ります。
計画内容及び主要な施策	（1）生涯スポーツ・レクリエーションの推進 （2）競技スポーツの強化推進

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度現状値	32 年度目標値	説明等
B	**総合型地域スポーツクラブ参加人数**	人	211	250	**総合型地域スポーツクラブ「エンジョイつくみ」参加人数**
	施設利用者数				

2．課題等

世代を越えて誰もが色々なスポーツを楽しめる場づくりとして、関係団体である総合型スポーツクラブ「エンジョイつくみ」が各スポーツ教室やイベント事業を開催している。

地域と密着した生涯スポーツ振興の推進を図っているところだが、気軽にスポーツを楽しめるよう、いかに生涯スポーツの普及・推進をしていけるかが課題。

3．取組状況等

H28 年度は 19 種目を開催し、延べ 10,583 人の参加があった。

「エンジョイつくみ」の広報は市のホームページの生涯学習課で広報。

H27.5 から始まった「おはよう！つくみん体操」も累計 277 日、延べ 7,836 人の市民参加となっている。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	スポーツ・レクリエーション活動の推進
施策の方向	市民が生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しみ、その活動を通じて、心身ともに健康な生活が送れるよう地域に密着したスポーツ・レクリエーションの普及、啓発を促進します。また既存施設の改修や充実を図り、スポーツ交流の拠点施設を整備します。 競技スポーツの強化においては、各競技の指導者育成と選手強化を目的とした施策を推進していくことで地域の活性化を図ります。
計画内容及び主要な施策	（1）生涯スポーツ・レクリエーションの推進 （2）競技スポーツの強化推進

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度現状値	32 年度目標値	説明等
	総合型地域スポーツクラブ参加人数				
B	**施設利用者数**	人	5,212	5,250	**総合運動公園内の各施設、武道館、市内 3 グラウンドの利用者数**

2．課題等

施設の老朽化が進んでいる。今後も長期的に使用していくに当たり、改修も必要となる。簡易な修繕から大規模なものまでが予想され、財源の確保等も課題。

競技スポーツにおいては、県体や県内一周駅伝等、ここ数年不本意な成績が続いているので、競技力の強化が課題。また、市の競技スポーツの底辺を支えるスポーツ少年団の育成も重要。

3．取組状況等

1. まちぐるみスポーツ運動
　町内対抗ナイターソフトボール大会、ミニバレーボール大会、ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会等の各種大会の開催。
2. 子どもの体力向上啓発事業
　県のスポーツ振興基金事業を活用した第 2 回津久見市スポーツ少年団対抗「アジャタ」競技大会を開催。
3. 国際交流事業
　約 20 年ぶりに「第 43 回日独スポーツ少年団同時交流事業」の受け入れを行った。ドイツ団員 8 名が市内でホームステイをし、中学生や高校生との交流を行った。
4. 施設整備
　市民体育館玄関の雨漏り修理

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	青少年の健全育成
施策の方向	家庭教育は全ての教育の出発点であり、基本的倫理感や社会的マナー、自制心、自立心等を育成する上で重要な役割を果たすことを啓発し、健全な家庭環境づくりを推進します。 さらに、学校・家庭・地域社会が連携・協働によるネットワークの強化を図り、それぞれの機能を発揮し、その役割を分担しながら、今後の青少年たちの健全育成を推進します。
計画内容及び主要な施策	（1）健全な家庭環境づくり （2）学校教育と連携した地域ぐるみの育成活動 （3）青少年の見守り活動の充実

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度現状値	32 年度目標値	説明等
―	**非行少年等の補導件数**	**件**	**9**	**0**	**津久見市在住の青少年が補導された数**
	子ども連絡所設置箇所数				
	土曜寺子屋つくみ塾				
	学校支援ボランティア数				

2．課題等

現在社会はスマホ等の急速な普及により、青少年にとって簡単に有害な情報が手に入ってしまう環境にあり、スマホやネットを介して見知らぬ他人との接触機会が生じたりして、犯罪に巻き込まれる危険性が高い。

通信機器の適切な使用や時間を守ること等、常日頃からの啓発が重要。また、学校・家庭・地域社会が連携し、地域ぐるみでの見守りが行えるよう、その役割分担も重要となる。

3．取組状況等

港まつりのソイヤ・花火大会、扇子踊り大会時にはＰＴＡと小中学校及び幹部交番が、子どもの安全対策や見守り活動を行っている。

また、H28 年度に『つくみっ子みんなで守ろう！』のチラシを作製し、H29.6 に市内小中学校の生徒全員に配布し、通信機器の使い方や使用時間を守るよう呼びかけている。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	青少年の健全育成
施策の方向	家庭教育は全ての教育の出発点であり、基本的倫理感や社会的マナー、自制心、自立心等を育成する上で重要な役割を果たすことを啓発し、健全な家庭環境づくりを推進します。 さらに、学校・家庭・地域社会が連携・協働によるネットワークの強化を図り、それぞれの機能を発揮し、その役割を分担しながら、今後の青少年たちの健全育成を推進します。
計画内容及び主要な施策	（1）健全な家庭環境づくり （2）学校教育と連携した地域ぐるみの育成活動 （3）青少年の見守り活動の充実

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	非行少年等の補導件数				
B	**子ども連絡所設置箇所数**	**箇所**	**355**	**380**	**子どもが困った時にいつでも助けてくれる家庭や店舗・施設等の数**
	土曜寺子屋つくみ塾				
	学校支援ボランティア数				

2．課題等

子どもが本当に困った時に黄色いステッカーのことが頭に浮かぶか？また、特定の人だけでなく、一般の市民もこの制度を知っているのか？
この制度が広く浸透するためには、周知の方法の幅を広げる必要がある。

3．取組状況等

津久見市防犯暴力絶滅対策協議会・津久見市連合ＰＴＡ・津久見市青少年健全育成市民会議・臼杵津久見警察署が連携して取り組んでいる。
この制度をＰＴＡ総会等でお知らせし、「こども連絡所　こまったときは　いつでもおいで！」の黄色いステッカーを家の見えるところに貼り、子どもが分かるようにしている。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	青少年の健全育成
施策の方向	家庭教育は全ての教育の出発点であり、基本的倫理感や社会的マナー、自制心、自立心等を育成する上で重要な役割を果たすことを啓発し、健全な家庭環境づくりを推進します。 さらに、学校・家庭・地域社会が連携・協働によるネットワークの強化を図り、それぞれの機能を発揮し、その役割を分担しながら、今後の青少年たちの健全育成を推進します。
計画内容及び主要な施策	（1）健全な家庭環境づくり （2）学校教育と連携した地域ぐるみの育成活動 （3）青少年の見守り活動の充実

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	非行少年等の補導件数				
	子ども連絡所設置箇所数				
C	**土曜寺子屋つくみ塾**	人	96	160	**子どもたちの学習習慣の定着と基礎学力の向上を目指して地域ぐるみで取り組むもの**
	学校支援ボランティア数				

2．課題等

土曜寺子屋つくみ塾は H27 年度にスタートし、地域サポーターが講師になっている。夏休みを利用しての体験学習も行っている。

これまでの推移を見ると、参加児童の減少が見られるため、保護者の理解がより得られるよう認知度を増すこと、募集期限を設けず、いつでも参加できるよう募集も継続的に行っていくことなどとし、児童や講師の増につなげることが課題。今後とも児童が自発的に、また、継続して参加できるようにしていく必要がある。

3．取組状況等

土曜寺子屋つくみ塾の取り組み内容として、

児　　童：小学校の 3～6 年生が対象
実 施 月：5～3 月の計 9 回　（7、8 月は夏休みのため実施しない）
実 施 日：第 3 土曜日　10：00～12：00
内　　容：国語と算数のドリル学習
場　　所：それぞれの学校
講　　師：地区住民、大分大学教育福祉科学部の学生
体験学習：磯遊び、津久見の水産業についての研修、カレー作り体験、星座観察

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	青少年の健全育成
施策の方向	家庭教育は全ての教育の出発点であり、基本的倫理感や社会的マナー、自制心、自立心等を育成する上で重要な役割を果たすことを啓発し、健全な家庭環境づくりを推進します。 さらに、学校・家庭・地域社会が連携・協働によるネットワークの強化を図り、それぞれの機能を発揮し、その役割を分担しながら、今後の青少年たちの健全育成を推進します。
計画内容及び主要な施策	（1）健全な家庭環境づくり （2）学校教育と連携した地域ぐるみの育成活動 （3）青少年の見守り活動の充実

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	非行少年等の補導件数				
	子ども連絡所設置箇所数				
	土曜寺子屋つくみ塾				
A	**学校支援ボランティア数**	人	5,045	3,800	**登下校時の交通安全や学校の授業にゲストティーチャーとして参加したボランティアの人**

2．課題等

学校によって参加者数のバラつきはあるが、登下校の安全指導や地域の人がゲストティーチャーとなる各種学校支援活動は定着している。今後ともボランティアの安定した参加と、新規参加者の確保が課題となる。

現在は各学校が学校支援ボランティアの事業を行っているので、市と連携した情報共有等も必要となる。

3．取組状況等

登下校安全指導
学習支援活動（通常の教科、総合的な学習、生活、道徳、読み聞かせ等）
部活動指導（運動系、文化系）
環境整備（施設・備品等の補修・清掃、花壇や植木の剪定等、学校図書室の環境整備）
学校行事（運動系、文化系）

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	地域文化の伝承と芸術文化活動の充実
施策の方向	津久見市文化協会をはじめ、その他市民文化団体等と連携を図り、市民生活を楽しめる文化的環境づくりに向け、芸術に親しむ心の醸成や活動意欲の高揚のために、市民文化活動の支援の充実や芸術文化鑑賞機会の拡大に努めます。 伝統芸能に関しては、後継者の育成を図るとともに、地域の伝統芸能保存団体や関係機関と連携を図り、保存・継承・活用に努めます。
計画内容及び主要な施策	（1）市民の文化・芸術活動の支援 （2）伝統文化及び文化財の保存と継承 （3）文化施設の有効活用

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度現状値	32 年度目標値	説明等
D	**観劇会イベント参加者数**	人	673	1,600	**H28 年度は市民会館の第 2 期工事のため、1 回のみの事業となった。**
	市民会館利用状況				
	文化団体数				
	指定文化財				

2．課題等

これまでは年間 3 事業を行ってきたが、市民会館の改修に伴い大ホールの座席が約 200 席減ったため、チケット料金の見直しが必要となった。

これまでどおりの安価な料金での提供を考えると、今後は 2 事業しかできない。ニーズに合った催し物を選定したうえで鑑賞事業の提供をしなければならず、決算時には赤字にならないような料金設定も必要となる。会員の確保も重要。

3．取組状況等

伊勢正三スペシャルコンサート「ただいま」

H29.3.5（日）17：00～市民会館大ホール
入場者数　673 人（満席）
入場料　5,000 円（全席指定）

市民会館のリニューアルオープン記念として、ゲストに太田裕美、大野真澄を招いてのコンサート。サプライズゲストに南こうせつの登場もあり、大盛況だった。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	地域文化の伝承と芸術文化活動の充実
施策の方向	津久見市文化協会をはじめ、その他市民文化団体等と連携を図り、市民生活を楽しめる文化的環境づくりに向け、芸術に親しむ心の醸成や活動意欲の高揚のために、市民文化活動の支援の充実や芸術文化鑑賞機会の拡大に努めます。 伝統芸能に関しては、後継者の育成を図るとともに、地域の伝統芸能保存団体や関係機関と連携を図り、保存・継承・活用に努めます。
計画内容及び主要な施策	（1）市民の文化・芸術活動の支援 （2）伝統文化及び文化財の保存と継承 （3）文化施設の有効活用

1．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、1 指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	観劇会イベント参加者数				
B	**市民会館利用状況**	**件**	**1,382**	**1,600**	**会議室やホール等、会館の利用件数**
	文化団体数				
	指定文化財				

2．課題等

H28 年度で会館の改修は終了した。2 階会議室はこれまで階段でしか上がれず、高齢者や身障者の方が利用しづらいとの意見もあったが、今回のエレベーター設置により解消される。

H29 年度に駐車場の整備が残っているが、改修により会館の環境整備が整ったため、以前に増していかに多くの市民に利用してもらうかが課題となる。

3．取組状況等

H28 年度は第 2 期工事の主なものとして、大ホールの座席・音響機器・空調機器の更新、エレベーターの設置や展示ホールのフラット化、トイレの洋式化、楽屋の改修等を行った。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	地域文化の伝承と芸術文化活動の充実
施策の方向	津久見市文化協会をはじめ、その他市民文化団体等と連携を図り、市民生活を楽しめる文化的環境づくりに向け、芸術に親しむ心の醸成や活動意欲の高揚のために、市民文化活動の支援の充実や芸術文化鑑賞機会の拡大に努めます。 伝統芸能に関しては、後継者の育成を図るとともに、地域の伝統芸能保存団体や関係機関と連携を図り、保存・継承・活用に努めます。
計画内容及び主要な施策	（１）市民の文化・芸術活動の支援 （２）伝統文化及び文化財の保存と継承 （３）文化施設の有効活用

１．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、１指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度 現状値	32 年度 目標値	説明等
	観劇会イベント参加者数				
	市民会館利用状況				
B	**文化団体数**	**団体**	**32**	**35**	**市文化協会加盟団体数**
	指定文化財				

２．課題等

津久見市文化祭を中心に毎年発表の場を設け、加盟団体においてはそれぞれに定期的な事業を行っているが、市民の文化意識高揚を図っていくためには、津久見市文化協会が中心とならなければならない。

H28 年度は加盟団体数が 1 減（K・ミュージック）となったため、加盟団体や会員数の確保も重要。

３．取組状況等

市文化協会の取り組みとして、
H29.1/21～22　第 46 回津久見市文化祭（展示の部 14 団体、芸能の部 18 団体）

文化協会加盟団体は個別に発表の機会を設けている。
（市民会館、公民館、インフォメーションセンター、老人ホーム等で発表や展示を行った。）

その他の文化団体については、樫の実会や市美術協会等、定期的な発表や展示を行っている。

平成 28 年度分　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

担当課	生涯学習課

施　策　名	地域文化の伝承と芸術文化活動の充実
施策の方向	津久見市文化協会をはじめ、その他市民文化団体等と連携を図り、市民生活を楽しめる文化的環境づくりに向け、芸術に親しむ心の醸成や活動意欲の高揚のために、市民文化活動の支援の充実や芸術文化鑑賞機会の拡大に努めます。 伝統芸能に関しては、後継者の育成を図るとともに、地域の伝統芸能保存団体や関係機関と連携を図り、保存・継承・活用に努めます。
計画内容及び主要な施策	（１）市民の文化・芸術活動の支援 （２）伝統文化及び文化財の保存と継承 （３）文化施設の有効活用

１．施策指標の進ちょく状況（指標が複数ある場合は、１指標ごとに作成してください。）

評価	施策指標の名称	単位	28 年度現状値	32 年度目標値	説明等
	観劇会イベント参加者数				
	市民会館利用状況				
	文化団体数				
B	**指定文化財**	**件**	**23**	**30**	**H28.4.6 に赤八幡社楼門が市指定有形文化財に指定され、23 件となった。**

２．課題等

文化財については、各地区にどのようなものが残っているのか、その洗い出しが重要であり、その保護等については文化財調査委員会において議論されている。

伝統芸能については、後継者不足による保持団体の維持が困難になっているので、後継者の育成が重要課題。また、保持団体と協議しながら順次助成に向けた取り組みを行っているので、今後とも継続していくことが重要。

地域に残る文化財や伝統芸能については、いかに保護し、後世に残していくかが重要課題である。

３．取組状況等

文化財　国指定天然記念物　1
県指定天然記念物　1
県指定無形民俗文化財　2
市指定天然記念物　5
市指定有形文化財　12（H28 年度に 1 件増）
市指定無形文化財　1
史跡　1

伝統芸能　H28 年度に扇子踊り保存会が日本生命財団の助成金を申請し、H29 年度交付としての決定あり。（子ども用の揃い絵羽浴衣 20 着）